





審査結果報告書

平成 30年 1月 29日

主査	氏名	生地 新	
副査	氏名	渋谷 明隆	
副査	氏名	根 明純	
副査	氏名	藤 有紀子	

1. 申請者氏名 : DM10030 村上 尚美

2. 論文テーマ :

医療で働く心理士のストレスとワーク・エンゲイジメントに関する研究
ー経験年数による比較ー

3. 論文審査結果 :

本論文は、我が国の総合病院に勤務する心理士を対象とした質問紙調査の結果を、分散分析や一般化線形モデルの手法を用いて統計学的に検討し、医療心理学および産業精神保健の視点から考察したものである。

申請者は、経験年齢の区分ごとの質問紙の回答内容を分析している。さらに、その中でも仕事に関連するポジティブで充実した心理状態であるワーク・エンゲイジメントに着目し、医療現場での心理士としての経験年数や性別、仕事の負担、仕事自体の要因、部署の要因、ワーク・ライフ・バランスなどの要因との関連について解析している。調査票の尺度の得点を医療現場での経験年数の区分によって比較した結果、医療現場での経験が長い心理士は、短い心理士に比べて、仕事の量的・質的負担感が高いが、仕事のコントロール度が高く、心理的ストレス反応は低く、心理士としての技能をより活用して仕事の意義を感じており、ワーク・エンゲイジメントが高いことが明らかになった。また、一般化線形モデルによる分析では、ワーク・エンゲイジメントは、低経験群で年齢や作業自体の要因と、中経験群で作業自体の要因と、高経験群では作業自体の要因や部署の要因と関連していることが示された。

本論文は倫理的な配慮もなされており、使われている調査方法や統計手法も考察の内容も妥当なものであり、医療心理学および産業保健の領域で価値のある論文と認められる。公開審査での質疑応答においても申請者は的確な応答をしていた。以上のことから、本論文は、本学大学院医療系研究科博士課程の学位論文として認めて良いと審査委員会は判断した。